



度会町議会 だより

広報委員
委員長 山北佳宏
副委員長 大西徹
委員 大野原徳
中西久博
西井仁司
中森慰



令和7年 第3回定例会 令和7年9月11日～22日(12日間)

この度の定例会では、補正予算関係3議案、決算認定5議案、条例関係5議案、監査委員選任同意1議案、請願4件、意見書4議案を可決・承認・同意・採択しました。定例会最終日には、5議員が一般質問を行いました。

また、10月8日、度会町議会が当番町として、度会郡4町議会で構成する度会郡町議会連絡協議会研修会を開催しました。

※議案等の詳細については、広報わたらい10月号をご覧ください。

一般質問

大西 徹 議員



○防災対策と

地域のコミュニティについて

町長答弁

備蓄品については、食料品や飲料のほか、発電機などの資機材から、おむつやゴム手袋といった消耗品まで約90品目を備えています。また、定期的な入れ替えや見直しにより、災害時において最大限の効果を発揮するよう管理をしています。また、備蓄状況の公表については、災害対策基本法等の一部改正が本年7月1日から施行され、これに伴い年1回の公表が義務となったことから、公表に向けて準備を整えているところであり、不足の生じることがないように継続した整備をしていく計画です。職員に対する使用方法等の訓練についても、当然のことながら実施していくことが重要と考えています。

また、ご懸念の防災対策においての地域コミュニティのあり方につきましては、自主防災会の強化はもちろん必要ですが、何よりも集落の垣根を越えた消防団の活躍に期待をしています。現在の34区3自治会の維持継続も困難となる時代が見えてきている状況からのご指摘かと思います。集落の存続に関しては、区の統合、合併や集落じまいといったことも近い将来に現実味を帯びてくるとも考えられますが、現時点では区長や自治会長を選出いただき、機能していると思っておりますので、即座に手だてを講ずるところまでは考えていません。



登喜三雄 議員



○デジタル社会への転換期

度会町のアイデンティティの確立、潜在能力

存在意義を見つめ直し、根を下ろしたまちづくりへの町長の政治信条等について(コメ・森・水環境づくりをどこへ導こうとするのか)

教育長答弁

・子どもたちの森林の学びについて

本町は、古来から森林の恵みを最大限に享受しています。子どもたちが、身近な自然を題材に環境・循環型の社会に興味を持って学びを深めていくことは、度会町らしさを育み、豊かな人材が育つ基盤になると考えています。学校活動においても、これまでの木育授業、森林組合の職場体験に加え、薪を使用したスポーツ、風車見学を今年度から計画しており、五感を活用した学びが体験できるよう、現在進めています。また、森林教育以外にも、ごみ分別学習を中心とした環境教育、米作り体験学習やお茶摘み体験学習など、度会町の魅力を肌で感じ、考え、実践する教育も進めています。

産業振興課長答弁

・コメづくりについて

町では、認定農業者をはじめとする担い手への農地の集積・集約化に取り組んでおり、加えて、地域ぐるみで取り組む農業用施設の共同保全活動に對しては、日本型直接支払制度を活用し、地域全体で担い手を支援していく体制づくりを推進しています。一方で、生きがいを持って自分たちの農地を守ろう



という意欲ある小規模農家の方に向けても、きめ細やかな支援が必要であると考えています。

農業振興地域整備計画の見直しにおいては、各地区での話し合いの結果、守るべき農地が明確になりました。今後は、ため池をはじめとした農業用施設の長寿命化に取り組み、農業生産基盤の強化を図り、美しい清流に恵まれた環境など、米づくりに適したこの度会町で育まれた安心安全なお米が、地域内で消費される仕組みづくりを模索しつつ、持続可能な農業生産が行われるよう農業振興に務めていきます。

・森づくりについて

町有林について林道でのアクセスが容易な山林は、森林整備センターとの分収造林契約を締結し、水源涵養保安林として保全を行う山林が多く、面積を占めています。落ち葉や枯れ枝の採取も制限されており、森林レンタル等、体験の場所として提供するのには難しいと考えますが、今後の森林体験の一つのあり方として参考とさせていただきます。広葉樹林の育成について、日の出の森は県の環境創造事業を活用し、森林の多面的機能の中でも保健機能を特に発揮することを期待され、整備が行われました。県との20年の協定期間は終了しましたが、今後も必要に応じ整備、保全を行い、交流と憩いの場として活用していきたいと考えています。河畔や荒廃農地の広葉樹林化については、放置山林が増加している現状では慎重に検討すべきと考えています。森林環境譲与税を活用した境界明確化事業などを通じ、町民の森林への関心を深めていくことをまず進めていきたいと考えています。

みらい安心課長答弁

・バイオマス発電の進捗具合と稼働への行動計画

バイオマス発電の進捗具合と稼働への行動計画については、令和6年9月に環境省から選定された脱炭素先行地域事業の一つとして、木質バイオマス発電設備の整備がありますが、今年度から計画を開始し、令和11年度の稼働に向けて検討を行っている状況です。今後の進捗状況については、随時、広報紙等を通じて町民の皆さんに発信していく予定です。省エネ設備の導入や再生可能エネルギーの活用によるCO₂等の排出削減量や、適切な森林管理によるCO₂等の吸収量をクレジットとして国が認証するJ-クレジット制度についても、いせしま森林組合とともに検討しているところです。

・宮川ダムの河川維持放流について

現在、宮川流域ルネサンス事業が取り組む宮川の流量回復に對して、水利使用規制に定められた宮川ダムからの河川維持放流量毎秒0.37m³に、発電用貯留水から毎秒0.13m³を上乗せした毎秒0.5m³の放流を実施しているところであり、さらなる流量

アップについても要望しているところです。

環境水道課長答弁

・水質保全について

町では、水道水源保護条例により水道水源の保護に努めています。保護区域の設定や審議会の設置、重要事項への審議等、以前から水源を守るべく措置が講じられてきました。とりわけ、水道法に基づく水質検査は毎月の実施が義務付けられており、当町においても専門機関に委託することで、原水、浄水ともに安全・安心な水であることを確認しています。なお、今夏の猛暑及び少雨の影響で、全国的に渇水の状況が聞かれる中、町内に設けられる表流水を取水とする注連指、長原、川上水源地については、毎月2回行う施設点検で、十分な水量が確保できていることを報告します。

建設課長答弁

・水環境づくり

宮川水系の環境改善は、度会町だけの行動で実現できるものではなく、あらゆる関係者が流域全体で総合的に取り組む流域治水により実現できるものと考えます。現在、事前防災対策の強化から各一級水系において、国・流域自治体・企業等が実施する治水対策について、宮川水系流域治水プロジェクト2.0」として取りまとめ、策定しています。これは、事前防災という別の社会課題の解決がもとでありますが、あらゆる関係者がそれぞれの立場に応じて取り組むことにより、水環境の改善も図られるものと考えています。度会町としても、宮川流域の一員としてのプロジェクトに基づき、各種の取組を推進していきます。その一端として、河川内の堆積土砂について、それぞれ河川管理者において対応すべきところですが、国・県の管理区間においては、流域市町で組織する宮川水系治水事業促進期成同盟会などを通じて、計画的に実施されるよう促していきます。町が管理する支川については、緊急浚渫推進事業債等を活用するなど、積極的に実施するよう努めていきます。これにより、流下能力を向上させるほか、酸素が行き渡る表流水を安定させ、水生生物の生息環境やよどみの減少による水質の改善も図れるものと考えています。また、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進することもプロジェクトに謳われています。例えば、上流の森林整備も流域治水に含まれます。適正な森林整備や治山事業を推進することにより、水源を涵養し、土砂の流出を防ぎ、結果、下流の河川環境の質の向上を図ります。さらに、自然環境保全に関する活動や水辺空間の創出、小中学生などにおける河川環境学習なども、国・県・流域市町が一体となり、取り組むべきグリーンインフラの一つとして推進していきます。

町長答弁

町政において、守っていくべきこと、また、変えていくべきことを、しっかりと区別しながら、町民の暮らしを守り、笑顔で元気に暮らせる、また、地域が持続的に発展していく町を目指し、20年・30年先を見据えた中長期視点で、最善・最速を志向していくことが最重要と考えています。小さな町だからこそできる相互のつながりを活かし、また、挑戦を厭わない姿勢で常に邁進しています。

山北 佳宏 議員

○災害時緊急避難所の環境整備について

町長答弁



大規模災害発生時の環境整備に関しまして、特にトイレの問題について、かなり掘り下げた体制整備についてのご質問と理解します。防災対策は、ここまで準備したら万全といったことはありませんで、本町の体制についてご説明します。まずは、災害時に一時的に避難するための指定緊急避難所についてです。避難所のほとんどが水洗トイレであり、うち役場保健センターや災害対策の拠点となる中川・小川郷・一之瀬各支部については、備蓄倉庫を備えており、避難所で設置可能な非常用トイレ本体と、建物被害のない避難所や各家庭の既存トイレで利用できる処理剤も相当数を備蓄しており、排泄物の固化・密封により衛生を確保できます。また、防災トイレアドバイザー等については、町として整備はしていませんが、災害時協定を締結している他の自治体や企業等の知識経験のある者に意見を伺うという状況です。また、今年度予算における簡易トイレ整備の進捗状況についてですが、マンホールマルチトイレは既に購入業者が決定しています。全国的に需要が高まっている状況ですが、できるだけ早期に納入してもらうよう依頼しているところです。

最後に、本町の地域性として、海岸沿いや都市部の町ではありませんので、数千人が避難所に押し寄せることを想定していません。先に相当数あると説明したトイレ用の凝固剤は、1万回以上使用できるだけの備蓄を備えておりますことから、避難所の利用だけではなく、各家庭の被災状況により配布できるよう備蓄していることとなります。避難所の環境整備については、今後も整備内容を検討しながら積極的に進めていく考えです。



濱岡 裕之 議員

○選挙の投票率向上について
○ハチの巣駆除について
○地域おこし協力隊活用の成果について

町長答弁



・選挙の投票率向上について
投票率の向上に向けた取組をということですが、投票しやすい環境づくりを目指し、度会町選挙管理委員会でもって、取り組んでいるところです。今年7月の参議院議員選挙では、県平均60.45%に対し当町は62.73%、今月(9月)7日の三重県知事選挙では、県平均39.77%に対し当町は47.29%と、いずれも県平均を大きく上回る投票率を維持しています。

総務課長(選挙管理委員会書記長)答弁

投票率の向上のための取組としては、周知による啓発活動、投票しやすい環境づくりの2点です。広報わたらいや防災無線などによる周知のほか、選挙当日は、選挙管理委員の町内巡回による啓発を行っています。令和5年3月号の広報紙では、期日前投票に町営バスの利用を推進し、役場への来やすさをお知らせすることで、投票に対するハードルを下げるよう努めています。また、令和5年度からは、役場庁舎入口に電子モニターによるデジタルサイネージを設置し、入場券がなくても投票できることや期日前投票の仕方、期日前投票所内の様子を案内すること、これまで期日前投票をしたことがない方にも制度が広まった成果が、期日前投票の増加につながったと考えています。次に、投票所の環境づくりについては、投票所への入りやすさ、親しみやすい雰囲気づくりに取り組み、コミュニケーションボードや投票支援カードを導入し、投票所で困り事がある方や障がいのある方へのサポートが行えるよう整えています。移動式投票所については、委員会でも長年にわたり検討してきました。現時点では、移動式期日前投票所の導入や期日前投票所の増設、あるいは送迎する移動支援は難しいと考えています。理由としては、投票管理者や立会人の確保、地理的要件のほか、地区ごとの有権者数などをふまえ、総合的に判断した結果です。町営バスの利用や近隣での乗り合わせ等のご協力などをお願いしていくことが現時点での考えです。なお、身体障害者手帳をお持ちの方などが対象となる郵便等による不在者投票、出張地などで投票する方の電子申請による投票用紙の請求などについて、具体的な手続方法をホームページで周知しており、問い合わせや実績も増えています。また、入院中の方や施設入所中の方の不在者投票についても、各病院、施設等のご協力の下、

適切に対応しているところです。今後も、個々の状況に応じて必要な制度を活用していただけるよう周知等を継続してまいります。

町長答弁

ハチの巣駆除について

ハチの巣駆除の対応については、令和5年にも回答したとおり駆除業者に依頼するよう案内することになっていきます。駆除業者の公平な受注機会の確保のため特定業者の紹介は行わず、タウンページ、インターネット等でハチの駆除の各業者へ問い合わせるようにと説明させていただいています。また、ハチの巣駆除に対する近隣市町、伊勢市、度会郡の取組については、当町と同じく業者案内の取扱いとなっており、伊勢市、大紀町においては、ハチ駆除用防護服の無料貸出しサービスを実施しているようですが、ハチの巣駆除費用に対する補助金制度については、近隣市町で実施しているところはありませんでした。当町においても、現在のところ、業者案内の取扱いを続けることとし、補助制度の創設は考えていません。

町長答弁

地域おこし協力隊の成果について

現在、地域おこし協力隊として、2名の男性隊員が活動中です。都市部出身である彼らの視点や感覚は、もともと度会町に住む我々とは良い意味で異なり、田舎暮らしの不便さも楽しもう、ここだからできることを考えようと、常に前向きな姿勢で取り組んでいます。

みらい安心課長答弁

3年目を迎える男性隊員は、移住や空き家バンクの相談窓口として、移住相談会、空き家バンクの登録や内覧希望者の対応を担っています。空き家バンクのチラシを作成し、地域に入り活動すること、登録件数が令和5年度以降、15件増加し、7件の成約として移住の成果につながっています。また、移住後のフォローにも関わり、地区の役員さんと移住者の話合いの場をセッティングするなど、自身が移住者で気付いた視点から双方の不安や疑問に寄り添う対応を行っています。彼自身も、棚橋地区の空き家を2軒購入し、1軒は自宅として、もう1軒は貸出用の物件として現在整備を進めているところで、今後も活動範囲の拡充が期待されます。

もう一人、2年目の隊員は、町内で体験型民泊施設を始めたという目標を持っています。柳地区の空き家を購入し、町内の宮大工の方に指導いただきながら、自らの手で改修作業を進めているところです。購入した空き家には裏山も付いており、自然体験やジビエの活用など、この地だからこそできるメニューの開拓を進めています。今年、わなの免許も

取得し、いずれは猟友会にも入って活動したいという思いも聞いています。成果としては道半ばではありますが、ゆくゆくは民泊による観光交流人口の増加につながることを、また、鳥獣捕獲の担い手の一人としての活躍も期待しています。兩名とも、度会町での定住、起業を目指して活動しています。今後も地域の方や事業所の方々とともに交流を深めていくことで、何か新たな取組に発展していくことを期待しています。

貞森 義和 議員

○エアコン設置に補助金制度を

町長答弁



酷暑と言われた今年の夏であったことからのご質問と受け止めています。本町におきましては、エアコン設置における補助制度の創設は考えていません。電気料金の補助に関しましても、以前に、コロナ交付金の活用で電気料金の減免ができたが、契約形態が複雑で電力会社も様々であることから、対応できずに断念しています。それに代えて、町水道の基本料金の減免措置を実施しており、長期にわたりすべてのご家庭が均一に享受することができるとのことです。

度会郡町議会連絡協議会研修会

(令和7年度当番町 度会町議会)

10月8日、度会町役場において度会郡町議会連絡協議会研修会が開催され、研修会には度会郡町議会議員及び各議事事務局合わせて45名が参加しました。

講演

・軽くて薄い！

ペロブスカイト太陽電池

京都大学 若宮研究室

若宮淳志 教授(度会町大野木出身)



研修

・度会町脱炭素先行地域事業について事業説明

度会町みらい安心課

・宮リバー度会ソーラーパークについて事業説明

明・視察

(株)クラフティア